

平成22年4月1日現在

研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2006～2008  
 課題番号：18401043  
 研究課題名（和文） 文化の伝播とその変容に関する中国福建省と沖縄における比較研究  
 研究課題名（英文） Comparative Study of the Diffusion and Transformation of Culture  
 in Fujian, China and Okinawa  
 研究代表者  
 小熊 誠(OGUMA MAKOTO)  
 沖縄国際大学・総合文化学部・教授  
 90185562

研究成果の概要：沖縄と福建の民俗文化の諸相について、多角的な比較研究が行われた。両地域の民俗文化は、その歴史的背景と地理的状況を考慮すると、沖縄における中国あるいは福建文化の受容と変容が一つの重要な視点となる。文化移動の歴史的背景を明確にしつつ、両地域の社会構造や信仰体系と対比して、家譜と族譜、門中と宗族、洗骨改葬、祖先祭祀儀礼、建築儀礼と風水、樹木信仰、琉球瓦と中国瓦などについて比較研究が行われた。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	3,800,000	0	3,800,000
2007年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2008年度	2,700,000	810,000	3,510,000
年度			
年度			
総計	9,700,000	1,770,000	11,470,000

研究分野：民俗学

科研費の分科・細目：社会科学／文化人類学・民俗学

キーワード：中元節 建築儀礼と風水 宗族の祠堂群 死生観の比較研究 祖先祭祀儀礼

## 1. 研究開始当初の背景

沖縄における社会関係や民俗文化は、多様な側面をもっている。それは、東シナ海に孤立した島嶼性という沖縄特有の地理的特殊性および中国と日本という大きな文化圏の間において双方からの社会的文化的影響を受けてきたという歴史背景と深くかかわっている。

とくに、近世以降は薩摩の実質的支配を受けて幕藩体制にもとづく社会的変革を行いながら、中国との文化的交流の中で儒教、風水、観音や関帝の民間信仰などさまざまな文

化が中国から沖縄に導入された。明治の廃藩置県以降は、日本の一部として近代化が進むが、前近代の伝統を受け継ぎながら沖縄の民俗文化は進展していった。

その結果、現在では御嶽信仰のような沖縄の基層的な伝統文化をもちながらも、石敢当やシーサーといった中国起源の文化も有し、さらに初詣や七五三などの日本本土の習慣も定着しつつある。

## 2. 研究の目的

上記の背景をもとに、特定の民俗文化を取

り上げて、中国と沖縄での比較研究を行うことによって、それぞれの地域における民俗文化の特徴について分析を行なうことを目的とした。

取り上げる民俗文化として、①家譜と族譜、②門中と宗族、③洗骨改葬、④祖先祭祀儀礼、⑤建築儀礼と風水、⑥樹木信仰、⑦琉球瓦と中国瓦などを予定した。

### 3. 研究の方法

近世における中国文化の窓口は、泉州と福州であった。したがって、泉州と福州周辺における民俗調査を行うことを方法上の一つの柱とした。とくに、沖縄在住研究者は、福建調査を中心に行った。

在日中国人研究者は、福建と沖縄双方の民俗文化の相違についてより深く理解するために、福建調査と沖縄調査の両方に従事することにした。

民俗文化を比較研究する視点としては、日中双方における民俗文化の類似について指摘することをその目的とする立場もある。しかし、本研究では、類似した民俗文化を取り上げて双方の地域において実地調査をすることによって、それぞれの地域における民俗文化の特徴を分析することに主眼を置く。

とくに、中国の影響があるといわれている沖縄の民俗文化の特徴を分析する際に、福建での調査資料と比較することによって類似する部分と類似しない部分を検討し、沖縄社会においてその民俗文化がどのように受容されているのかを実証的に分析することが可能になると考えられる。

### 4. 研究成果

沖縄の民俗文化は、その歴史的関係や地理的關係などから、中国あるいは日本本土からの影響があると指摘されてきた。今回は、沖縄と中国の民俗文化の諸相について比較研究を試みた。このような比較研究を行う際、調査者は沖縄と中国の双方の民俗文化を調査する必要があるし、そのどちらの民俗文化に対してもある程度の調査経験がある方が望ましい。今回は、在日中国人研究者を研究協力者に依頼して、この点では研究が深まったと評価できよう。

具体的には、①家譜と族譜と②門中と宗族の項目は、琉球・沖縄における家譜と門中の成立と形成について、近世琉球士族社会の形成と深い関係があることが明確となった。さらに、その制度は、基本的に近世日本の武家社会の家が基盤にありつつ、その上に父系血縁関係を重視する中国の宗族の制度がかぶさって、沖縄独特の門中と家譜の成立につながったことが明らかとなった。

③洗骨改葬の項目では、中国の南部と沖縄には、双方とも洗骨改葬の習俗があるが、中国では埋葬したのちに薦骨するのに対し、沖縄では埋葬せずに風葬したのちに改葬する点で違いがあることが指摘され、それはそれぞれの伝統的な葬法違いにあることがわかった。

④祖先祭祀儀礼の項目では、いつ、どのような祖先を祭祀するかという点で、中国福建省と沖縄の比較研究が行われた。まず、祖先祭祀の儀礼の比較が行われたが、そのなかで祀られる祖先の類別の違いが大きな論点となった。つまり、福建では、死者がすべて祖先となるとは限らず、夭折者、自殺者などの異常死をした者は祖先とはみなされず、「餓鬼」という範疇で別に祭祀される。沖縄では、夭折者も自殺者も家の仏壇で祀られるのは大きく異なる。この点は、双方の家族親族制度との関連が指摘され、今後の課題となる。

⑤建築儀礼と風水の項目では、中国福建における一般の人々の空間感覚には、風水が強く介在しているのに対して、現代沖縄における風水知識は希薄なものとなっている。沖縄ではむしろ、石敢当やシーサーなど本来風水原理に基づくものが慣習化しており、風水原理はほとんど普及していない。それは、風水専門家である風水師が、中国では現在もなお活動しているのに対して、沖縄では近代化の中で中国的知識の断絶があり、風水専門家が存在しないことも関連がある。

⑥樹木信仰の項目では、榕樹に対する福建と沖縄の比較研究が行われた。沖縄では、キジムナーという妖怪の住処として榕樹が使われる。キジムナーは、樹木霊の性格を持つという指摘もあるが、それ自体は榕樹の精霊というわけではない。それに対して、福州市周辺では、榕樹の古樹に精霊が宿るといふ樹木信仰があり、その祭祀形態を比較することによって、榕樹に対するアニミズム的信仰が人格化されていく過程が示された。両地域は、植生が似ており、榕樹が代表的な樹木であるが、それに対する信仰の違いが指摘された。

⑦琉球瓦と中国瓦の比較研究の項目では、泉州開元寺と浦添ようどれの石棺彫刻の類似点が指摘された。また、明朝系軒丸瓦の鬼面瓦当文様の那覇出土品と中国南京周辺出土品との類似が検討された。また、中国における灰色瓦と赤色瓦の分布が福建省閩河を境にしていることが判明した。16世紀後半に中国から琉球に導入された焼成技術が、17世紀末以降、灰色瓦から赤色瓦に転換しく現象がある。この変化には地理的、文化的に近い福建地域との関わりが想定される。

以上、沖縄と福建の民俗文化の諸相について、多様な角度からの比較を試みた。風水知識や瓦技術など、歴史的に直接福建から沖縄

にもたらされた文化については、文化の重要後における沖縄での変容過程に注目することによる比較研究の新たな可能性を指摘することができた。また、祖先祭祀や洗骨改葬、樹木信仰など、それぞれの地域の信仰体系と深くかかわる民俗文化については、表面的な文化の相違を指摘するだけではなく、社会構造や信仰体系の違いと関連させた対比的な比較研究から、それぞれの地域の民俗文化の意味を掘り下げて考察する必要性が今後の課題となろう。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計16件)

上原 静「沖縄諸島における中近世の鑄造技術と生産」『南島考古』第28号、2009年、33-60頁

上原 静「首里城西のアザナ跡出土の鍛冶鑄造関連資料」『埋文研究紀要6』2009年

上原 静「琉球国と鑄銭」『出土銭貨からみた環シナ海と琉球史』(出土銭貨研究会第15回大会資料集) 2008年、11~34頁

何彬「葬式が語る漢族の「あの世」」『SOG I』2008年2期、表現文化社、2008年、64-68頁

何彬「葬法・墓と魂の行方」『SOG I』2008年3期、表現文化社、2008年、73-76頁

何彬「土饅頭・椅子の墓・亀の甲墓—墓と古来の環境認識」『SOG I』2008年4期、表現文化社、2008年、22-26頁

何彬「お盆に祭られる主役たち」『SOG I』2008年5期、表現文化社、2008年、73-77頁

何彬「都市における死者儀礼の今昔—北京市の事例から見えるもの—」民俗文化研究所『民俗文化研究』2006年、80~103頁

何彬「葬儀革命のシンボル—八宝山」『民博通信』114号、国立民族学博物館、2006年、14-15頁

何彬「中元節習俗と周辺文化」(中国語)『アジア民俗研究』第六輯、学苑出版社(中国)、

2006年、125-139頁

周星「文化自覚与古村鎮的『再発見』」李友梅編『江村調査与新農村建設研究』上海大学出版社、2007年、39-49頁

蔡文高「招魂儀礼から見る漢族の死生観—死の場所と靈魂観・祖先観の考察を中心に—」近藤功行/小松和彦編『死の儀法』ミネルヴァ書房、2008、3

蔡文高「中国漢族の葬法」近藤功行/小松和彦編『死の儀法』ミネルヴァ書房、2008、3

潘宏立「中国東南部における回族の文化変容と祖先崇拜：福建省南部回族村落における現地調査を中心にして」『平安女学院大学研究年報』第6号、2006年、59-72頁

潘宏立“The Old Folks’ Associations and Lineage Revival in Contemporary Villages of Southern Fujian Province”, *Southern Fujian: Reproduction of Traditions in Post-Mao China*, Chinese University (Hong Kong), 2006, pp. 69~96

潘宏立「福建僑郷的同姓組織與海外華人：石獅蔡氏宗族及其宗親組織的個案研究」中文大学香港垂太研究所(香港)、『跨国網絡與華南僑郷：文化、認同和社会変遷』、2006年、55~76頁

[学会発表] (計10件)

小熊 誠「近世琉球における士族門中の親族的性格」第12回中琉歴史関係国際学術会議(中国・青島)、2009年

小熊 誠「沖縄における風水の受容と現状—日中比較民俗学初探—」閩南文化国際シンポジウム(台湾・成功大学)、2007年

小熊 誠「沖縄文化における中国文化の影響—福建の宗族と沖縄の門中の比較研究—」沖縄国際大学南島文化研究所市民講座、2006年

何彬「埋葬と墓地に関する日中の比較研究」『アジアの葬儀産業研究』セミナー(東京日仏会館、フランス国家科学院主催)、2007年

何彬「中国のお盆」第826回日本民俗学会

談話会 (成城大学)、2006 年

何彬「福建省の民間信仰の復興と寺院」慶應大学東アジア研究所プロジェクト『東アジアにおける宗教文化の再構築』第3回研究会、2006年

蔡文高「中国と沖縄の洗骨改葬の比較研究」琉球・沖縄学会 (韓国・ソウル大学)、2008年

周星「古村鎮在当代中国社会的『再発見』」、愛知大学 21 世紀COEプログラム (国際中国学研究センター)『現代中国学の課題と展望—文化分科会：改革・変革と社会・文化の変容：過去と現在』、2006年

萩原左人「福州の榕樹信仰」、琉大史学会、2008年

潘宏立“The Fishing Village and the Life of its Fishing Population in Southern Fujian Province of China” (「中国福建省南部の漁村及び漁民生活」)、「沿岸河口域における持続的な水産資源利用モデルの構築とアジアへの適用に関する研究」国際シンポジウム、於韓国仁荷大学、2010年3月16日

潘宏立「福建省南部における華僑・華人ネットワークと同族・同郷組織についての調査報告」、於日本大学中国・アジア研究センター、2009年4月11日

〔図書〕(計1件)

- ① 古家信平・小熊誠・萩原左人『日本の民俗 12 南島の暮らし』吉川弘文館、2009年、93-278頁

〔その他〕(計3件)

○講演

何彬「墓まいりや法事の習慣からみた中国と日本の異同」火葬研究協会公開講座『価値観の多様化と墓地・火葬場の今後』2008年7月30日

周星「文化空間与文化伝承」、中国中央民族大学新聞与伝播学院、2007年3月27日

周星「文化空間・文化景観・文化伝承」、中国福建師範大学社会歴史学院、2006年9月5日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小熊 誠 (OGUMA MAKOTO)  
沖縄国際大学・総合文化学部・教授  
研究者番号：90185562

(2) 研究分担者

田名真之 (DANA MASAYUKI)  
沖縄国際大学・総合文化学部・教授  
研究者番号：30405609

上原 静 (UEHARA SHIZUKA)  
沖縄国際大学・総合文化学部・教授  
研究者番号：40320519

(3) 連携研究者

周星 (XHOU XING)  
愛知大学・国際コミュニケーション学部・教授  
研究者番号：00329591

何 彬 (HE BING)  
首都大学東京・都市教養学部・教授  
研究者番号：50305405

潘宏立 (PANG HONGLI)  
京都文教大学・人間学部・教授  
研究者番号：20321060

蔡文高 (CAI WENGAO)  
神奈川大学・法学部・準教授  
研究者番号：40412382

萩原左人 (HAGIHARA SAHITO)  
琉球大学・法文学部・教授  
研究者番号：80284941